



## 16 フィリピン ボラカイ島環境保全事業

増加する観光客による  
環境負荷軽減に貢献

承諾額／実行額	13億5,200万円／13億5,100万円
借款契約調印	1995年8月
借款契約条件	金利2.5%(コンサルティングサービス部分は2.1%)、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	2002年12月
実施機関	フィリピン観光公社 URL: <a href="http://www.philtourism.gov.ph">http://www.philtourism.gov.ph</a>



### 本事業の目的

西ビサヤスに位置するボラカイ島において、上水道、下水道、廃水物処理施設を整備することにより、水不足、下水に起因する地下水・海洋の汚染、ゴミ発生量増大への対応を図り、観光開発をしつつ同島の自然環境の保全に寄与することを目的とする。

### 本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価b

本事業により整備された浄水施設にかかる施設利用率は2005年実績で60%、給水人口は計画値(2005年)16,284人に対し実績は14,431人、汚水処理人口は、計画値(2005年)16,284人に対し、実績は3,328人と低位に留まっている。また、汚水処理量は2005年実績566,725 m<sup>3</sup>/日、下水道料金回収率は2004年実績60%であることが確認された。加えて、本事業対象である廃棄物処理場は、下水処理場から排出される汚泥については100%処理しているが、事業実施中(2000年)に成立した法律に基づき廃棄物処理の管理責任は地方自治体にあると判断されたため、当初計画されていた一般ゴミ処理事業は実施されていない。よって、本事業の実施により一定の効果発現がみられ、有効性は中程度である。

### 本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。本事業

は、中期開発計画(1993-98年)等のもとで計画され、事後評価時においても、環境を保護しつつ観光開発を推進することが重視されている。

### 事業実施の経済性(効率性) 評価b

本事業は、事業費が計画を若干上回り(計画比109%)、期間も計画を上回ったため(計画比149%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延および事業費増加の主な要因としては、現地通貨の下落や計画時の調査(F/S)の見直しによる事業内容や設計の変更等が挙げられる。

### 今後の展望(持続性) 評価b

本事業は、実施機関と地方政府の間で廃棄物処理場の活用が検討課題となっているものの、上下水道の維持管理はボラカイ上下水道システム(BWSS)により適切に実施されており、持続性は概ね問題ないと評価される。

### 結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は概ね高いといえる。教訓としては、観光開発のような需要の把握が難しいインフラ整備事業については、計画値や工事の仕様が決定するまでは適時に見直しを行うことが挙げられる。



本事業実施により整備された下水処理場

### 開発途上国専門家の意見

環境インフラ事業は、将来の需要等を見越した計画が重要である。本事業では観光需要が過小に予測されたが、近隣に他の観光地もないため、環境負荷を分散させるといった施策を講じることは困難である。

専門家の氏名: Mr. Francisco L. Roman, Jr. (研究機関)  
ハーバード大学ビジネススクール博士(国際ビジネス)。現在、ヒルズガバナンスセンター(HGC)理事等に従事。専門は経営学、産業政策等。